



川嶋 どちらかというと、今まで行政は公共施設を造ることを目的にやってきたイメージですが、「公共施設とは何か」をもう一度考え直す良い機会です。公共施設を有効に使ってまちづくりを進めるために、施設造りをするのではなく、まちづくりをするための基盤だと考えることが重要です。「新しく造る時代」ではなく、「賢く使う時代」かと思います。

市長 施設をどう使うかということですが、これからの時代は人口構造も変化してきます。津市の今後の人口動向という点から、公共施設がどうあるべきかが関係してきますし、財政にも影響があります。

川嶋 現在人口は28万人です。これが15年、30年経ちますと、22万人まで減少していきます。人口が減り、働き手が少なくなることで、税収が大幅に減少します。もう一つは、普通交付税が合併算定替えの特例の期限を迎えますので、収入がこれから大きく減少していくのは避けて通れない課題になります。

市長 未来に向けて、健全財政を維持しながら必要な行政サービスを提供していくのは、津市の大きな責任です。子や孫の世代まで津市が住み続けるのに快適な場所であるためには、行政がしっかりと取り組まなくてはなりません。その一つが公共施設ですが、これから公共施設の在り方としてどういう方向性がありますか。

川嶋 大きく3つの視点があります。一つは、総量・配置の見直し、二つ目は有効に使うこと、三つ目は効率的に運営していくという3つの視点から約1,100の公共施設をチェックして、本

当に今の状況でいいのか点検していかなくては、将来に大きな禍根を残すことになっていきます。

市長 集約化・複合化・有効利用・共同利用といったことを津市でも取り組み始めていますが、今ある施設をどう工夫して使うかも大切ですし、もう一つは、古い施設を造り変えるときに新しい時代にふさわしい施設にしなくてはなりません。国がそういうことを地方債などで支援しようという仕組みもできているようです。地域の在り方と公共施設の関係も含めてお話いただけますか。

川嶋 これからの公共施設の見直しに当たって、配置の適正化、総量の見直しをしていく手法として集約化の話や複合化の話が出てきます。それ以外にも、一つの施設を周辺を含めて面的に見ることが重要です。施設をピンポイントに見るのではなく、その周辺にある施設を俯瞰的に見ていくと、たくさんの類似した機能を持った施設が配置されていることがわかります。有効に使えるはずのキャパが残っていても縦割りに

施設を点で見るのではなく 地域を俯瞰して面で捉える

にやってきた関係上、結果的に使い切っていないことになり。そこを相互利用することや、複合化の視

点から有効に使っていくことを考えなくてはいいけません。いろいろな自治体に助言しているのは、公共施設を使い切ってもらいたいということです。「使い切る」とは二つあり、一つは耐用年数まで時間軸でしっかり使っていくということ、もう一つはどうやって他の用途に使い切っていくかという考え方で、一つ一つの施設を点検していく必要があります。

市長 お話を伺っていると、地域をどう経営していくのかと公共施設に大きな関係があると思いますが、その際に高齢化が進むので、コンパ

